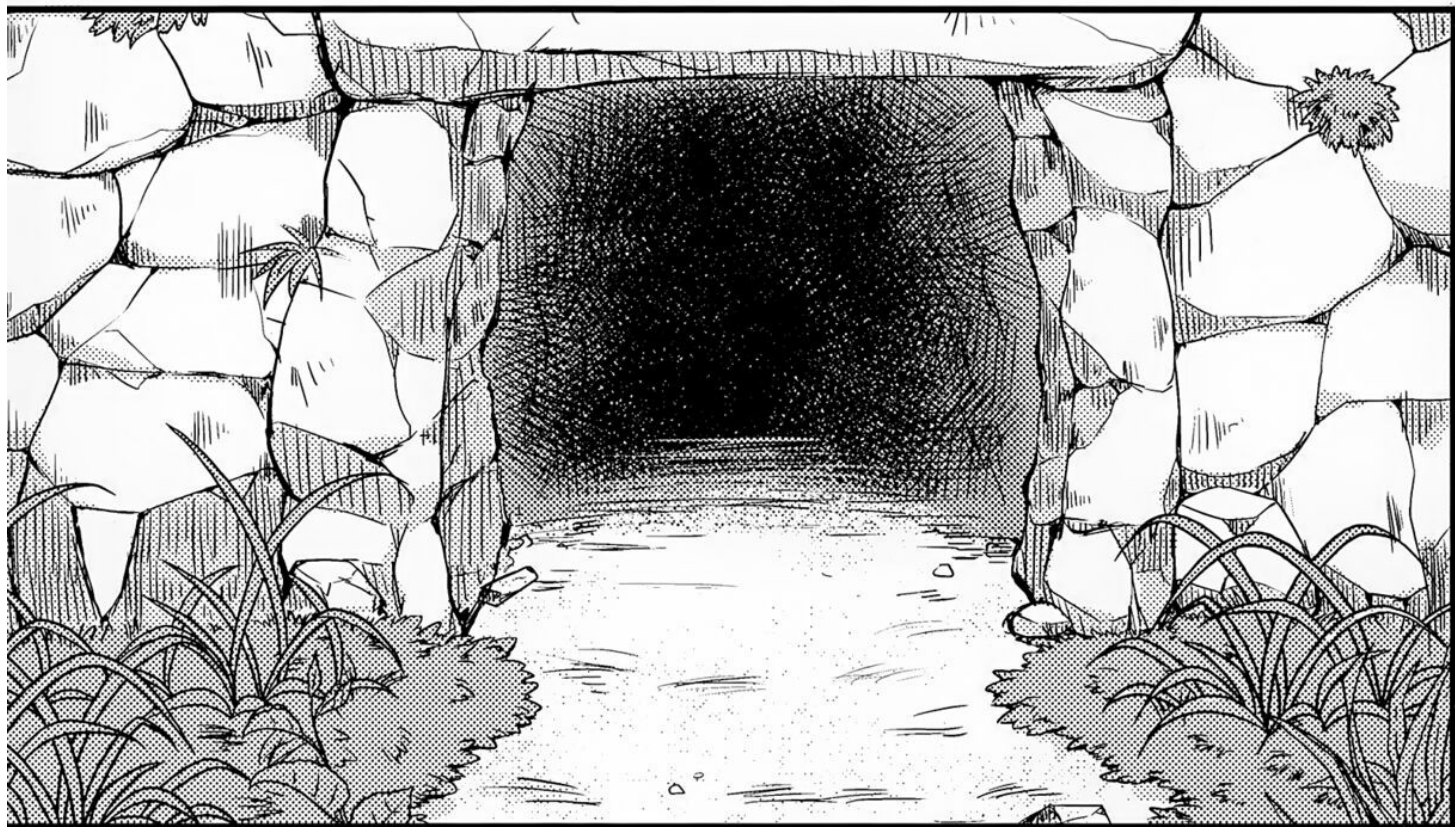


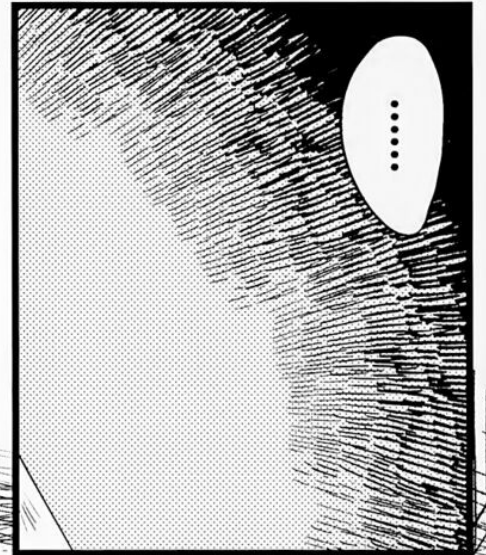
R-18  
成人向け

しゃくしゅが あらわれた！ ▼





ここまですべて  
来たけれど...



.....



魔物一匹だつて  
出てきやしないなんて  
どういふことだ...?

もしかしたら  
ここにはもう何も  
いないのか...?



魔物の素材を  
採取しに来たのに  
どうやら無駄足  
だったみたいだ...

おれはシン

駆け出しの  
魔導士だ

シューッ

今日ここに来たのは  
魔法薬の調合に必要な  
魔物の素材を探すためだ

ダンジョンという場所は  
本来魔物が多く潜み  
単独での行動は危険と  
されているが…

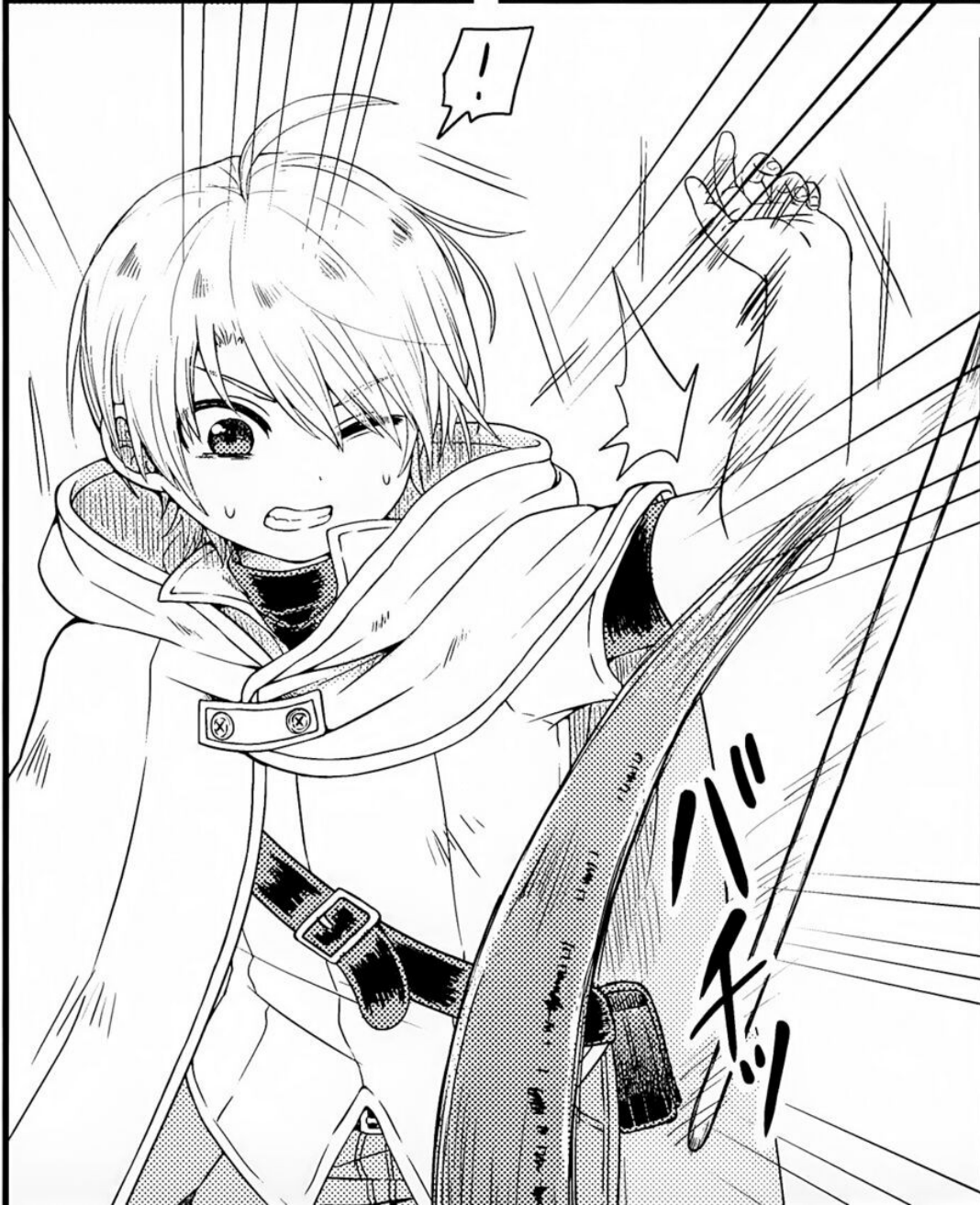
だがおれは優秀だから  
一人でも問題ない  
群れて冒険するような  
弱い人間たちとは違う

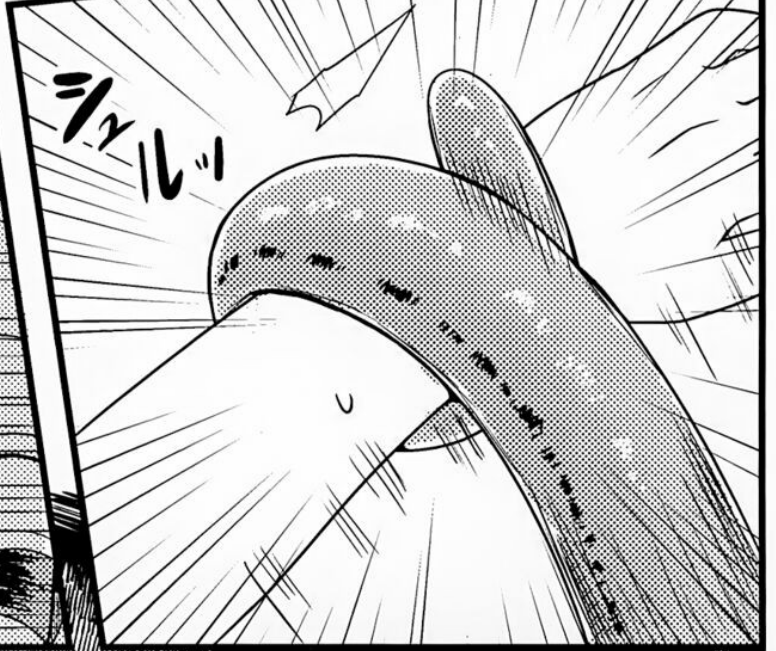
それにしても…  
ここも何も出てこないとなると  
ここには魔物がないのかも  
しれないな…

どこか別のエリアの  
ダンジョンにでも移動して  
探してみるか…

あ…?

スレ







くそっ…!  
抵抗しようにも何故か  
体に力が入らない…

この触手の表面の  
ネバネバした液体の  
成分か…?…?

気色が悪い…  
何とかして早く  
こいつから逃げないと…

えっ…  
何して…

グッ  
グッ  
グッ

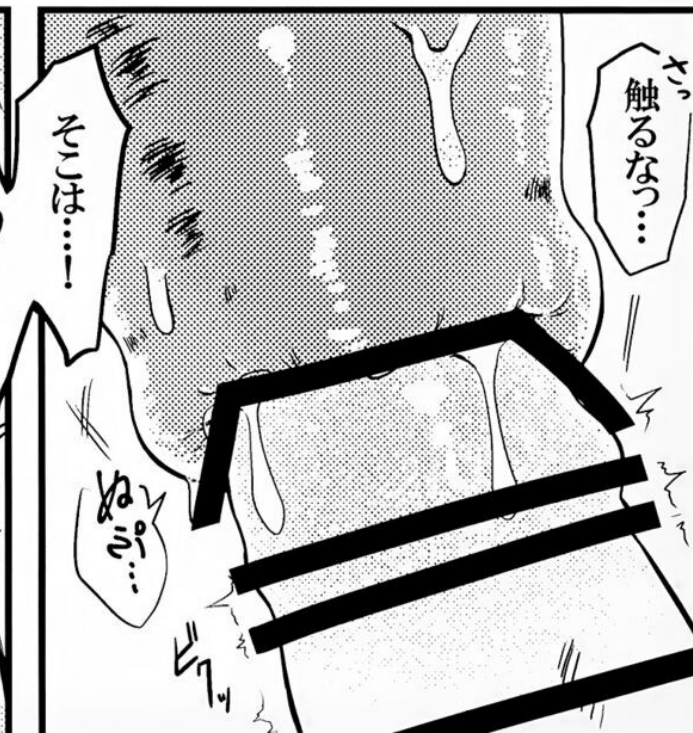
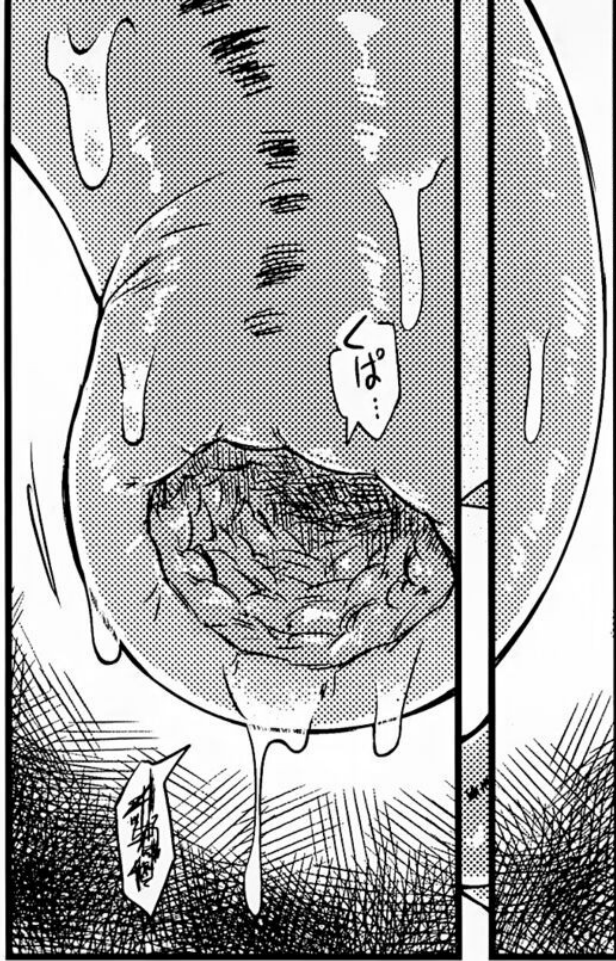
ゴーン…

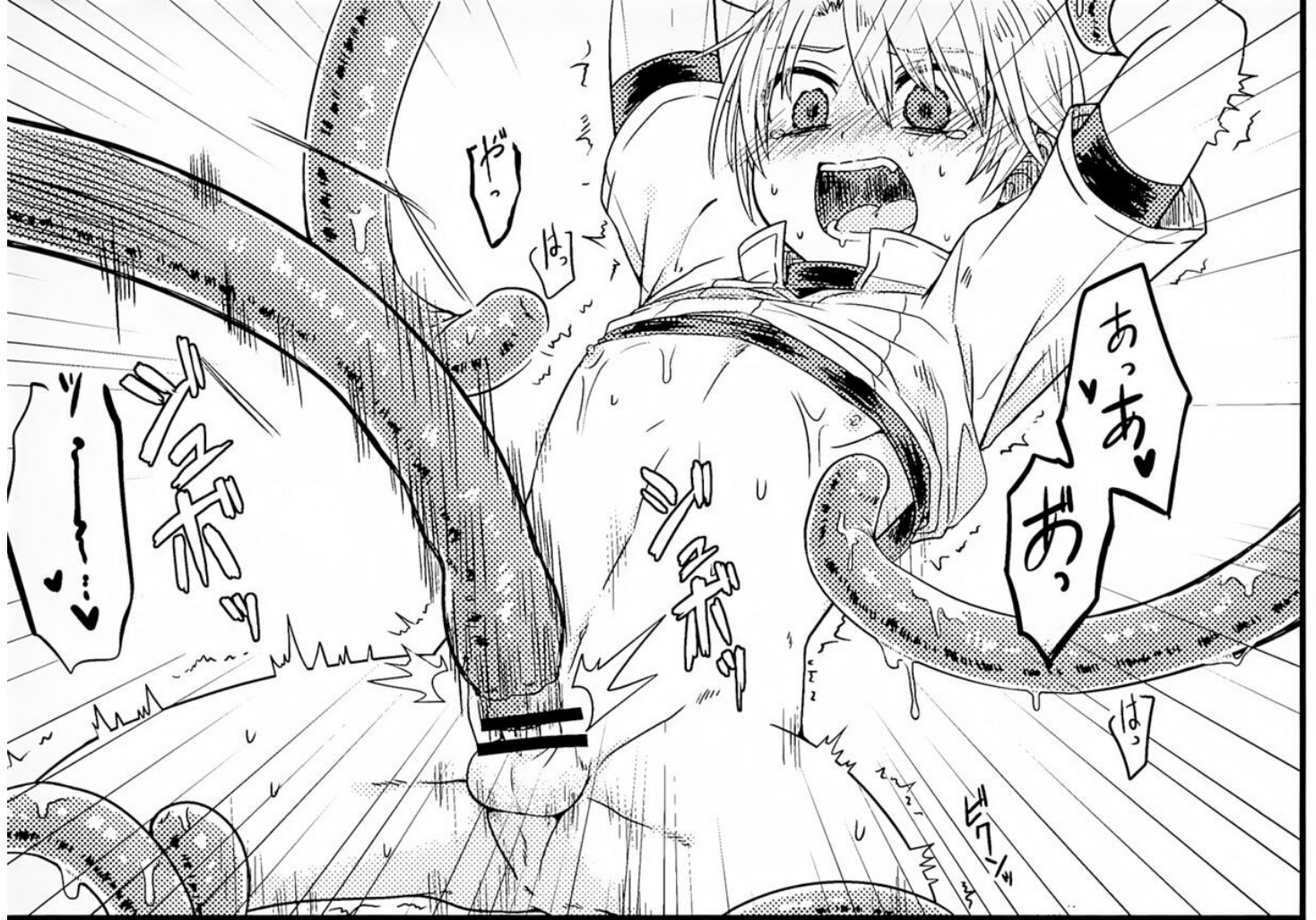
ちよっ…  
待って…!

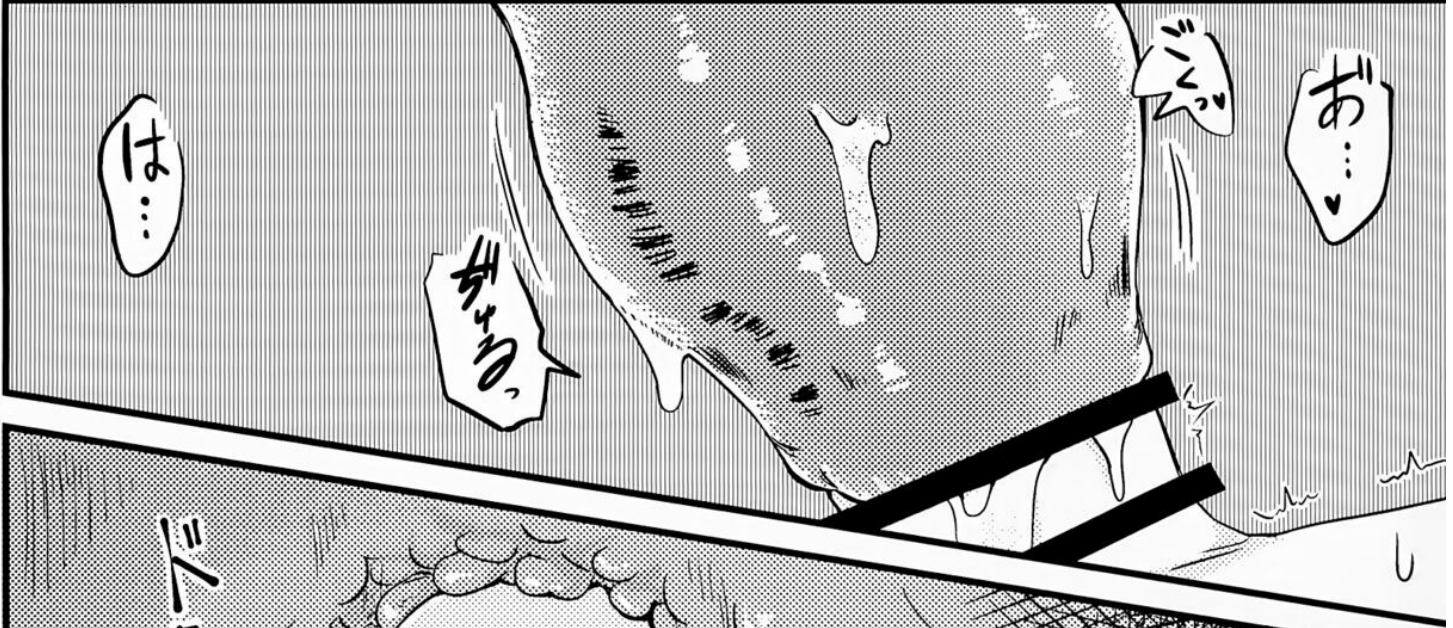
やめっ…

グッ

グッ  
グッ  
グッ









この触手…  
一体何の目的で  
こんなことを…？

仮にこれが  
捕食行為だととして  
ヒトの体液だけを  
欲している…？

そんなバカなこと  
あるわけが…

それにしたって  
おれがこんな奴なんか  
辱められるなんて…

杖さえあればこんな触手  
すぐにも魔法で  
焼き払ってやるのに…！

せめて他の冒険者が  
通りかかってくれれば  
何とかなるか…？

ダメだ…！  
こんな屈辱的な姿を  
見られるくらいなら  
死んだ方がマシだ…！

何か手を  
考えないと…

だめだ…  
頭がぼんやりして…

…あれ？

もしかして…おれ  
気を失ってたのか…？

あれから  
どうなった…？

触手は…

ピンッ

ッ…！

ギョ

くっ…  
離せ…！

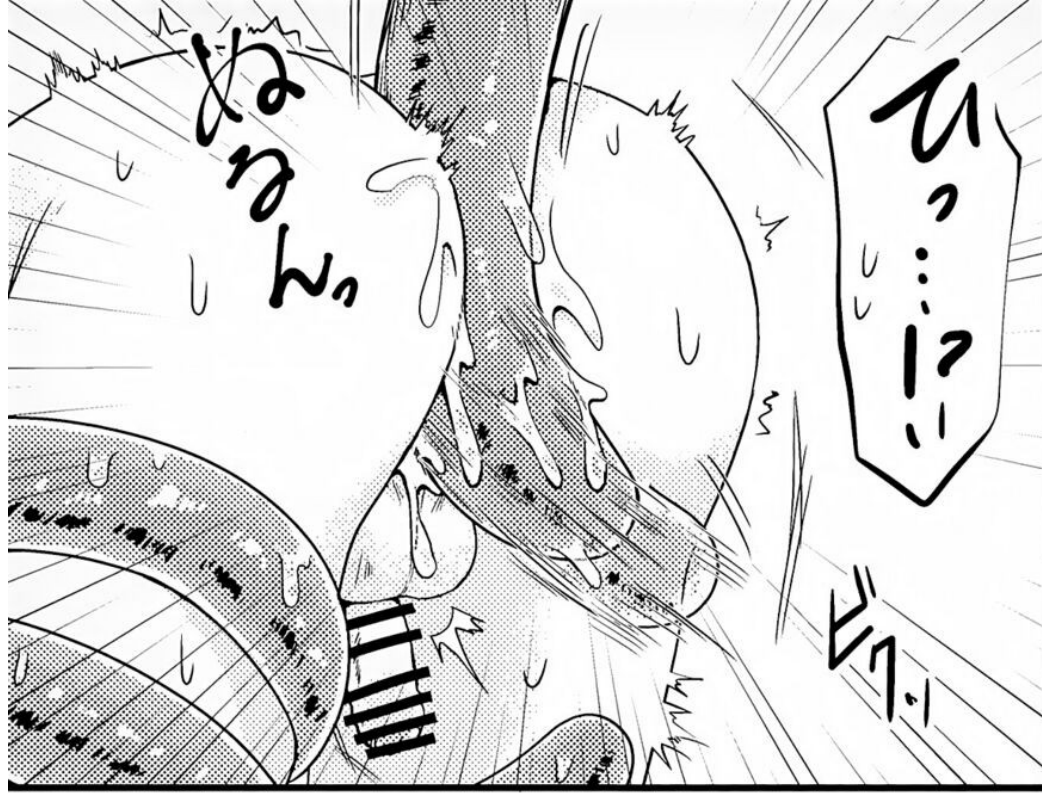
ギョ

離れないということは  
まだ何かするつもり  
なのか…！？

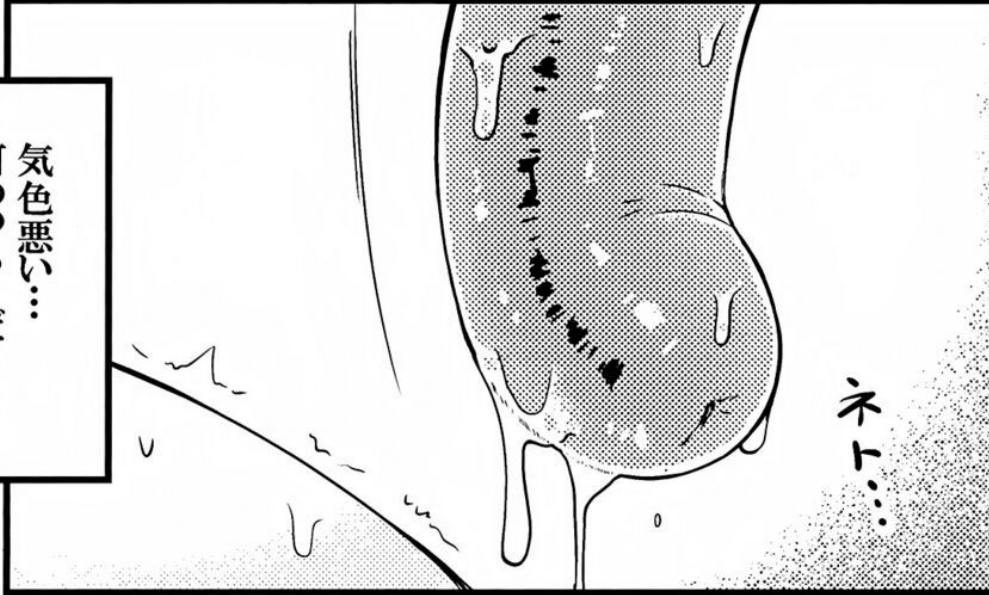
一体何が目的なんだよ  
こいつは…！？

ギョ

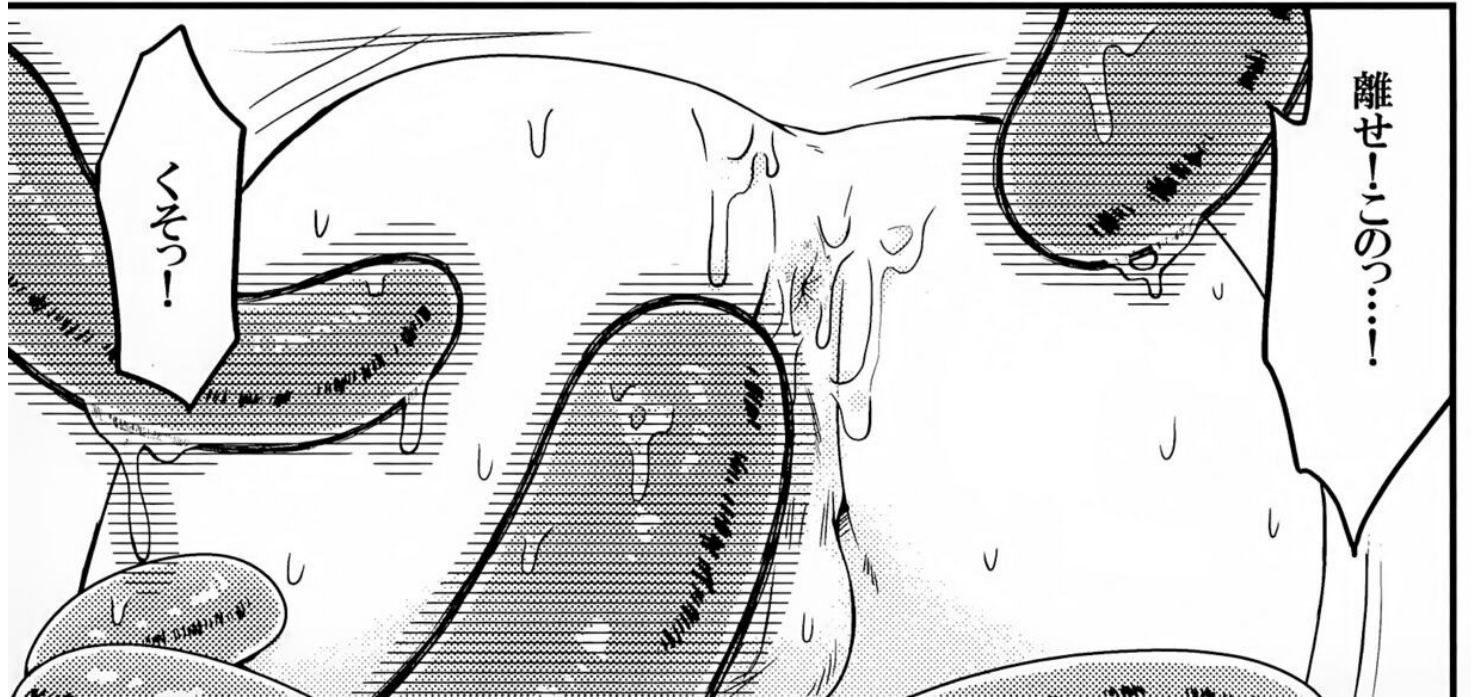
とろ…



気色悪い...  
何のつもりだ...?

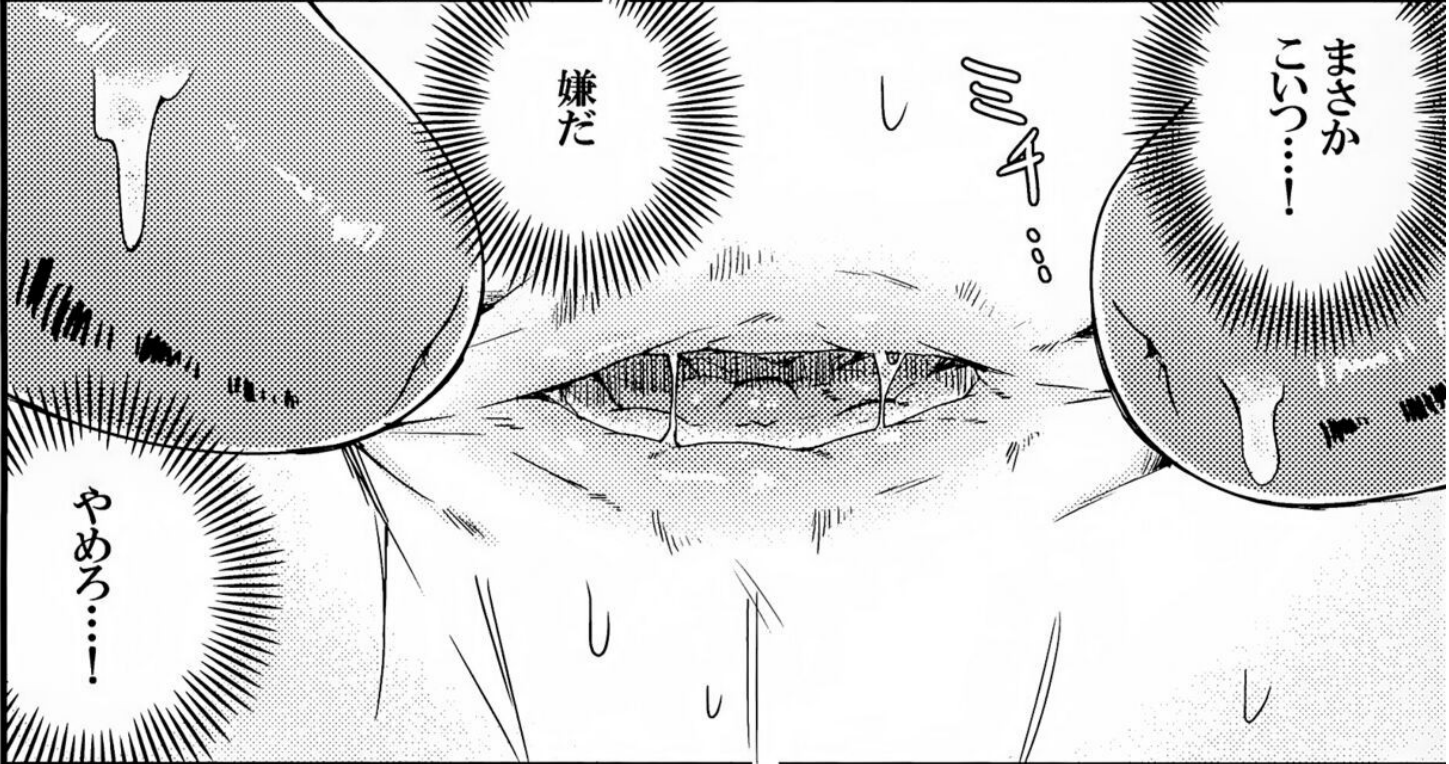
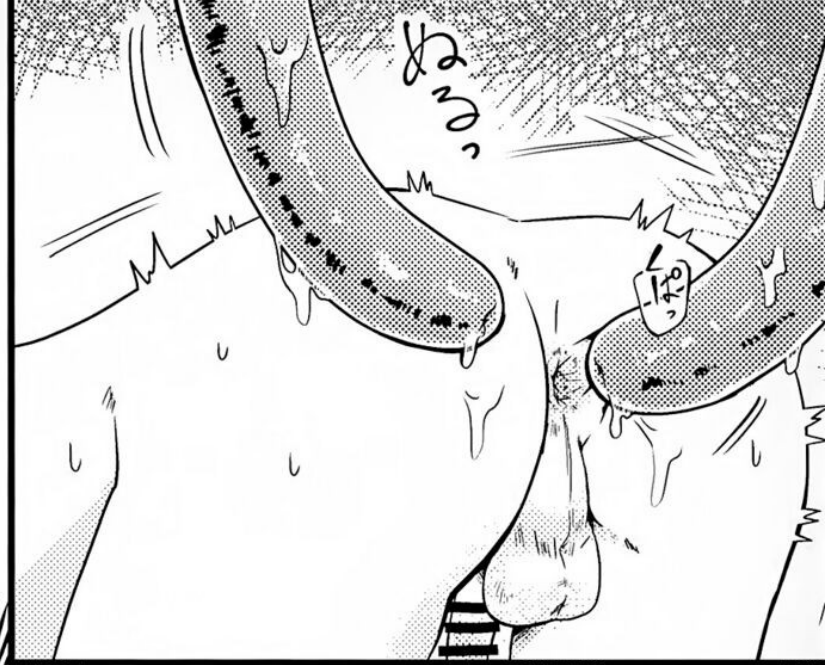


あの粘液を  
塗りつけているのか...!?

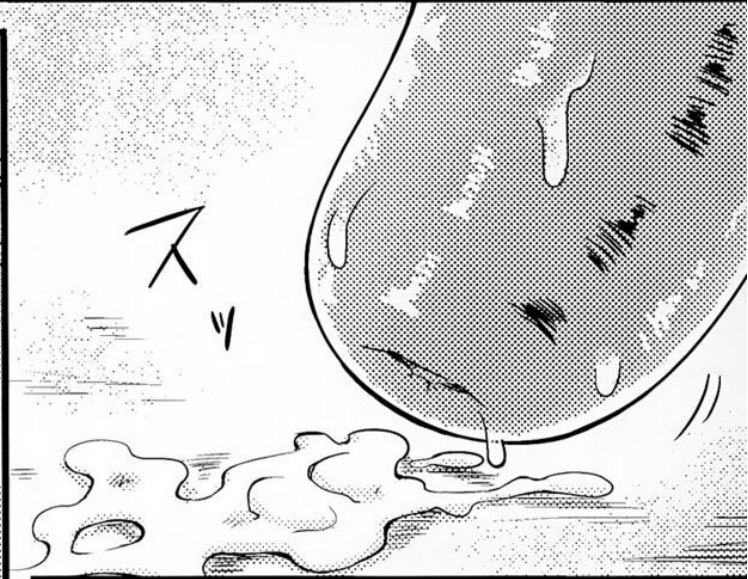


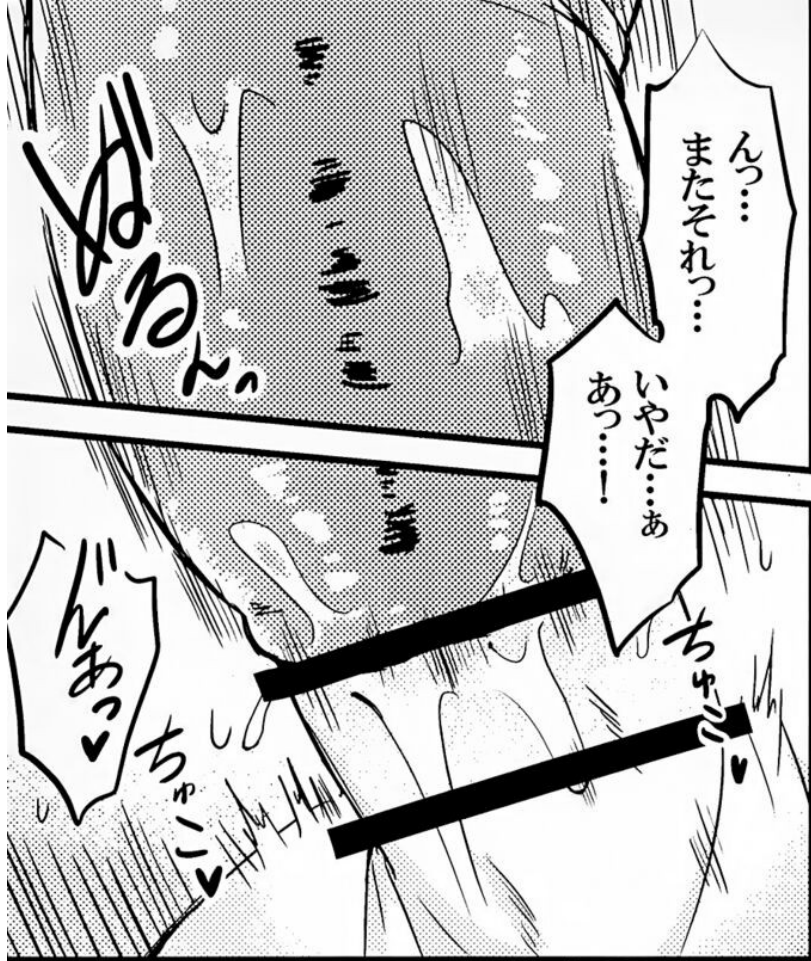
くそっ!

離せーの...!





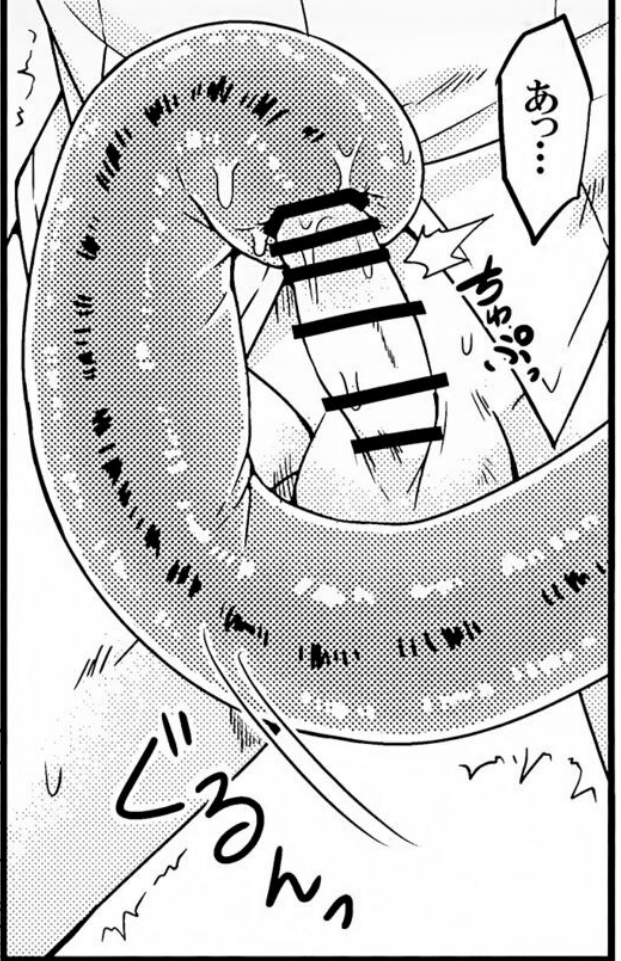




んっ…  
またそれっ…

いやだ…あ  
あ…!

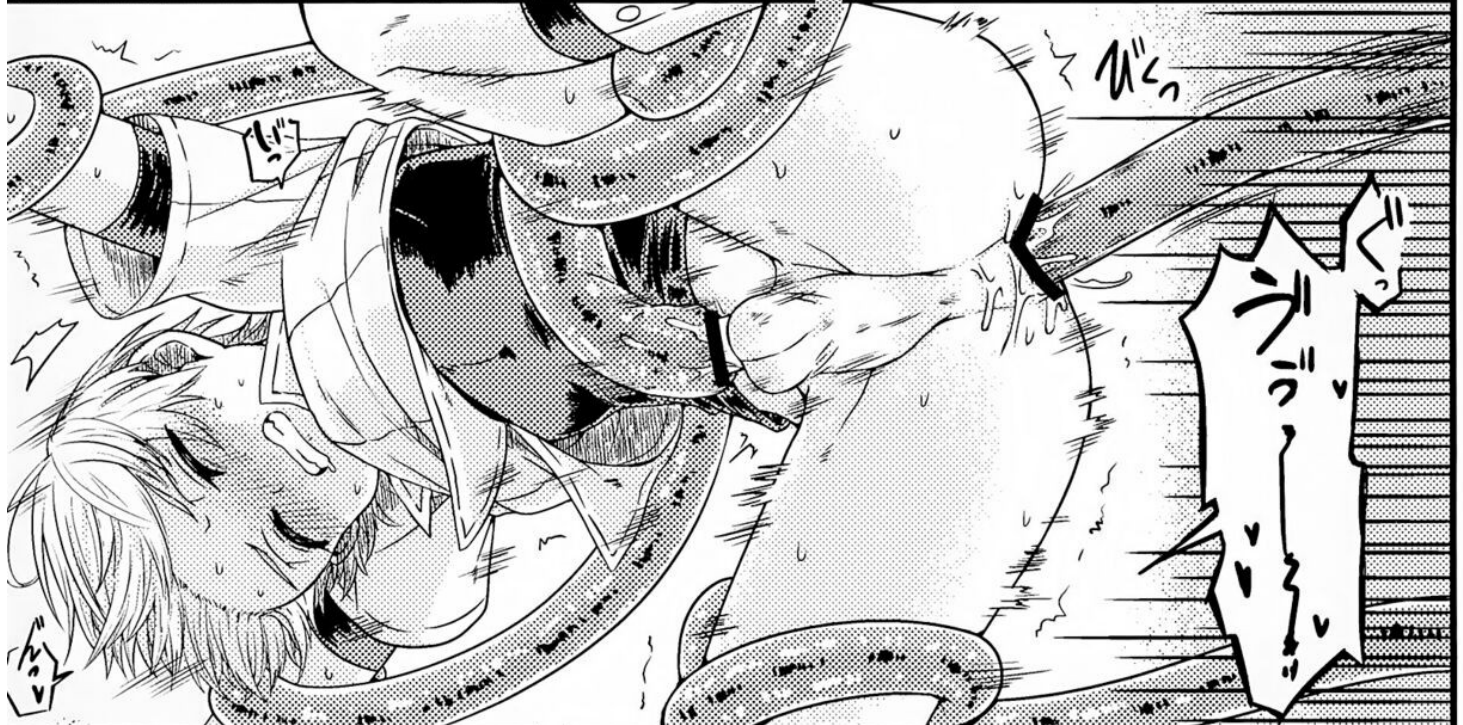
ちやん



あ…

なるん

なるん



ぐぐぐ



あ…あ

出る…

出る…!



あ…

前も後ろも触手で  
めちやくちやにされて…

嫌なはずなのにっ…  
気持ちいいのがどんどん  
上がってきてるっ…!



……い

おーい…

生きてるー？

大丈夫？

声…？  
誰かいるのか…？

おれは  
どうなったんだ…？

あ  
起きた？

誰

お前…誰だ？

アイツは…  
さっきまでいた  
魔物はどこに…？

ニム

うん？

それよりキミ…  
新米の魔導士  
じゃないか？

まだ杖の補助がないと  
ろくに魔法も使えない  
んじゃないの？

ここには滅多に  
誰も来ないんだから  
一人じゃ危ないよ

その油断で  
醜態晒してたのは  
どこの誰だかね

そ…それは…！

さっきはたまたま  
油断しただけで…！

ゴッ…

そこでキミに  
提案なんだけど

僕をキミの  
仲間にしてよ

きっと役に立って  
みせるからさ！

何で…そうなる…？

単独の魔導士なんて  
魔力を養分にする魔物に  
とっては恰好のエサだよ

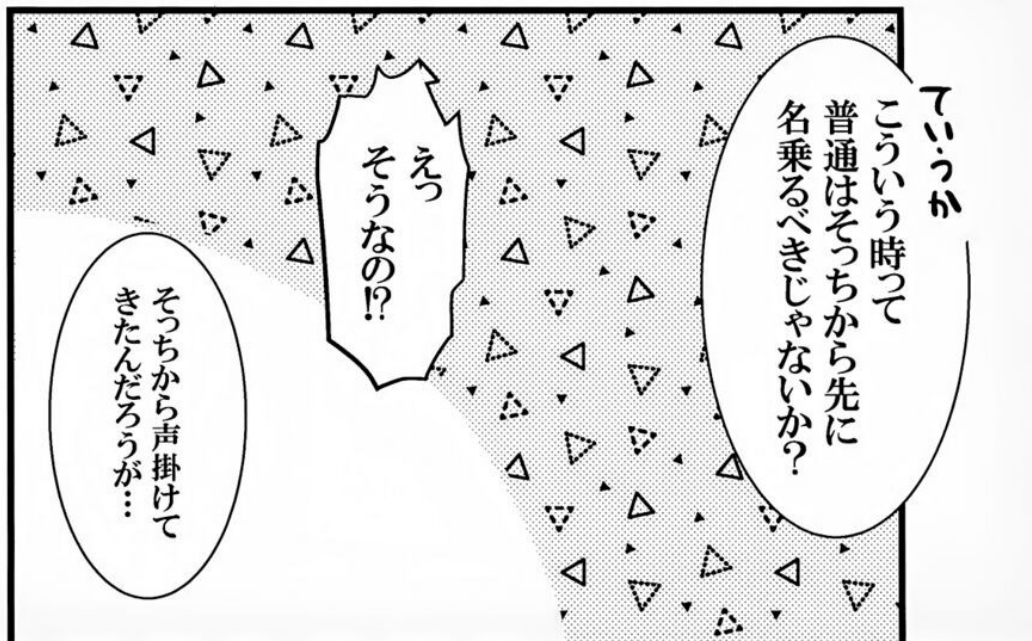
それもキミみたいに  
慢心してるような奴  
なんかは特にね

もし今後キミが  
危険な目に遭ったとして  
必ずしも誰かが助けて  
くれるわけじゃない

剣士や武闘家と違って  
魔力が切れたら  
身を守る術がないだろ？

盗賊に人攫い…  
危険なのは魔物だけ  
じゃないしさ

…ね？



テトラ:

…だったかな?

確か…

何で疑問形なんだよ…  
自分の名前だろ

あ…あはは

ちよつと下忘れ  
しちゃったみたい

何だそれ…

しかし参ったな…  
あの触手に魔力を殆ど  
吸われたみたいだ

謎階段

これじゃ転移魔法すら  
使えないから  
出口まで歩くしか…

でも地図も無いし  
土地勘にも自信が  
無いしな…

謎マップ

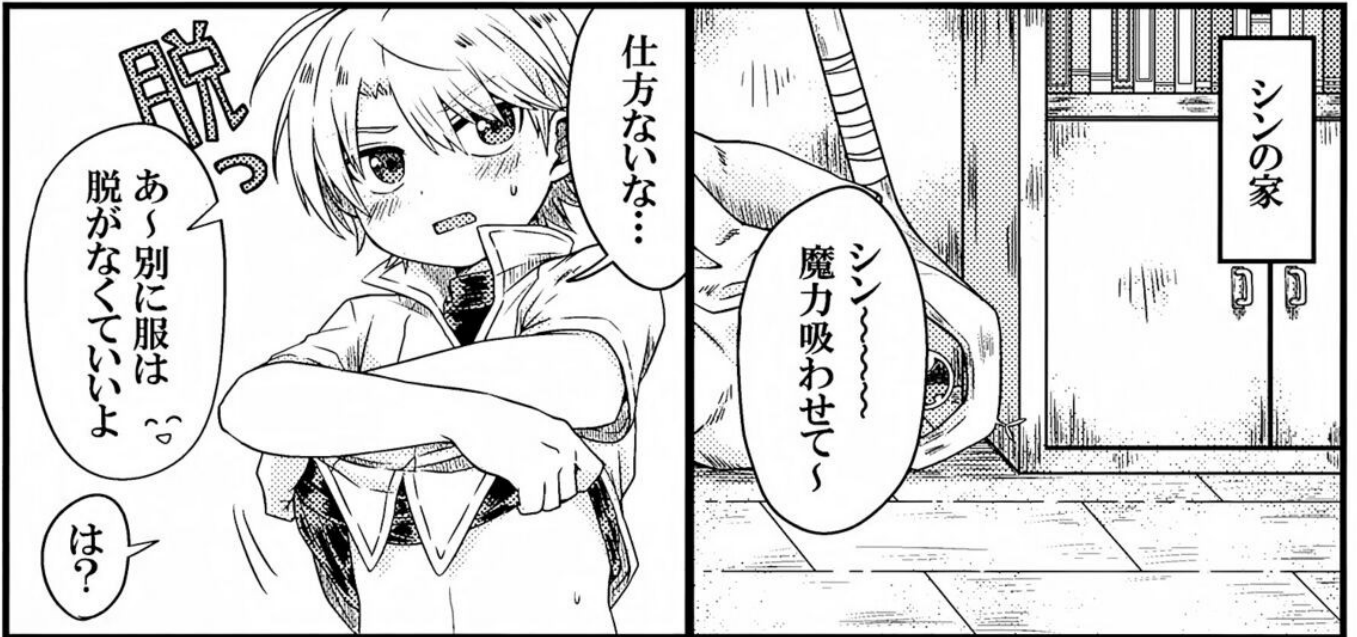
あ…  
まずい…

そろそろ  
擬態が…

テトラ

お前つてこの  
ダンジョンの外への  
ルートつて…





■あとがき■

この度は拙著をお手に取って頂き、誠にありがとうございます。

一次創作をこのような媒体で発表する機会は今回が初めてで、色々と手探りしながら何とか形にすることが出来ました。

『己の絵柄が好きすぎるので  
この絵柄でエロ同人が読みてえ…』

という執念を原動力に、日々正気と闘いながら  
原稿の執筆に励んでおりました。

普段あまり漫画らしい漫画を描かない人間のため、  
まだまだ技量不足な部分が多々ありますが、  
少しでも楽しんで頂けたら幸いです。

発行	ふら印
発行日	2024/3/30
印刷所	株式会社ポプルス様
連絡先	koromoagag@gmail.com
X(Twitter)	@nanafushi774

- 成人向け作品のため、未成年者の購入及び購読禁止
  - 無断転載、WEBへのアップロード並びにオークション出品等禁止
- アッ

”自称”優秀な駆け出しの魔導士であるシンは  
プライドの高さだけは一人前。群れることを  
嫌う彼は、単独でのダンジョン攻略に挑む。  
そんな中、忍び寄る触手モンスターによって  
不意を突かれて捕まってしまい…。

